

「湘南伊勢原のさかもとのたまご」が かながわブランドに登録

9月27日、県と生産者団体で構成するかながわブランド振興協議会は、湘南伊勢原のさかもとのたまごをかながわブランドに新規登録しました。

安全安心でおいしい さかもとのたまご

湘南伊勢原のさかもとのたまごは、飲み水に丹沢山系の地下水を使用し、餌にカルシウムが豊富な貝化石を加えて飼育した鶏から産まれる、ミネラルたっぷりの卵です。「毎日食べる卵だから安全安心おいしいもの」をモットーに、その日の朝に取れた新鮮な卵を湘南地域で直売を中心に販売しています。伊勢原うまいものセレクトにも登録されています。

かながわブランドとは

統一の生産・出荷基準を守り、一定の品質を確保するなどの要件を満たしている県内の農林水産物や加工品を登録する制度です。

☎農業振興課 ☎94-4664



ラグビー 三菱重工相模原ダイナボアーズ公式戦

ジャパンラグビーリーグワン三菱重工相模原ダイナボアーズ対コベルコ神戸スティーラーズ戦が特別価格で観戦できます。



☎三菱重工相模原ダイナボアーズ事務局 ☎042-761-2686
☎スポーツ課 ☎94-4628

と き 令和7年1月12日(日)
と ころ 相模原ギオンスタジアム(相模原市南区)
対 象 市内在住・在勤・在学の人100人(申込順)
費 用 大人1000円、高校生以下無料※別途発券手数料がかかります
申込み 右のQRコードからお申し込みください
※JapanRugbyIDの登録が必要です
ダイナボアーズホームページ



バナー広告を募集します

市ホームページにバナー広告を掲載しませんか。自社のホームページなどのリンクを張ることができます。

広告規格 縦60ピクセル×横120ピクセルの画像形式(5キロバイト以内)

掲載期間 1カ月、3カ月、6カ月、12カ月のいずれか

広告料 トップページ月額1万5000円、その他のページ月額5000円(市内事業者はそれぞれ1割減額)

申し込み 市役所4階の担当で配布する申込書に記入して直接担当へお申し込みください。申込書は市ホームページからも入手できます◇随時受け付けています

バナー広告の掲載位置が変更

3月のホームページリニューアルに伴い、レイアウトを変更しました。追従型の「フローティングバナー」を採用し、画面に固定表示されるため、目に留まりやすくなりました。



各種コンクールの審査結果

市の審査により、次の児童・生徒が各賞を受賞しました(敬称略)。

市読書感想文コンクール

応募作品数2654点(小学生1229点、中学生1425点)の中から、市長賞9人、教育長賞18人が選ばれました。

市長賞

【小学生の部】

谷山瑞帆(大田小1年)、鈴木心寧(伊勢原小2年)、和泉晟我(高部屋小3年)、高橋春和(成瀬小4年)、山崎菜々香(高部屋小5年)、山田優那(同6年)

【中学生の部】

横山奈々(伊勢原中1年)、高澤希心(山王中2年)、坂上葵奈(伊勢原中3年)

教育長賞

【小学生の部】

和泉玲花(高部屋小1年)、中澤蒼太(緑台小1年)、天野太喜(高部屋小2年)、阪本瑛斗(大田小2年)、松崎咲里(伊勢原小3年)、三好佑梨(石田小3年)、原田悠(緑台小4年)、石原大輝(竹園小4年)、佐藤穂乃香(大田小5年)、遊馬健心(竹園小5年)、窪嶋統(大田小6年)、宮本結理(桜台小6年)

【中学生の部】

白幡一葵(山王中1年)、喜多穂香(中沢中1年)、飯野智香子(伊勢原中2年)、五十嵐育人(中沢中2年)、大貫寧々(山王中3年)、大泉玲奈(成瀬中3年)

☎教育指導課 ☎74-5247

市福祉作文コンクール

応募作品数725編の中から、優秀賞11編が選ばれました。

優秀賞

【小学生の部】

平晴希(高部屋小6年)、土井達満(同5年)、中山雅菜(成瀬小6年)

【中学生の部】

田中希美(中沢中1年)、名淵結香(山王中3年)、有園尚登(成瀬中2年)、井上柑凪(伊勢原中3年)、森住芽依(同)、千原玲菜(成瀬中3年)、中島陽(同)、松岡香碧(中沢中1年)

☎福祉総務課 ☎94-4718

レスパイトサービスをご利用ください

家族の負担軽減や心身のリフレッシュのため、知的障がい児・者を一時的に預かります。伊勢原駅からの送迎、おやつ(実費負担)もあります。
と き 12月25日(水)～27日(金)、令和7年1月6日(月)・7日(火)の午前9時～午後4時
と ころ 桜ハウス(桜台2-23-20)
対 象 市内在住で小学生以上の知的障がい児・者と生活している人8人(申込順)

費 用 4時間以内500円、4時間超1000円※生活保護世帯などは無料
申し込み 市役所1階の担当で配布する申込書に記入し、郵送(〒259-1188)※住所欄の記入は不要)か直接担当へお申し込みください※希望者が多い日は利用日を調整します。申込書は市ホームページからも入手可
締め切り 11月29日(金)



レスパイトサービス事業臨時職員(支援員)を募集

公園散策や運動などをしながら障がい児・者と一緒に過ごします。

対 象 16歳以上の人(高校生可、資格不要)
勤 務 日 サービス実施日のうち都合の良い日
勤務時間 午前8時30分～午後5時
勤務場所 桜ハウス
賃 金 時給1400円(交通費支給)
申し込み 電話で、めだかくらぶ(☎94-3553、平日の午前10時15分～午後7時)にお申し込みください





強盗事件に注意

強盗事件が関東各地で発生しています。適切な防犯対策をして被害を未然に防ぎましょう。

被害防止対策

◆留守番電話機能の活用◆家にいるときも必ず施錠◆ドアを開ける前に来訪者をドアスコープなどで確認◆自宅に多額の現金を保管しない◆窓に防犯フィルムや補助錠を設置◆庭にセンサーライトや防犯カメラを設置◆万が一の際の逃げ道を確保

こんな電話には要注意

不審な電話の目的は詐欺だけではなく、家の情報を得るための可能性があります。「家にお金がいくらおいてあるか」、「いつ家にいるか」などの不審な質問には答えず、すぐに電話を切って110番するか、伊勢原警察署(☎94-0110)にご連絡ください。

☎市民協働課☎94-4715



伊勢原の職人に迫る

伊勢原市商工会の協力により、商工業に携わる職人の皆さんを紹介する連載企画です。匠の技をお持ちの皆さんの仕事に対する熱意や思いを、作業の様子とともにお届けします◇市ホームページにも掲載しています。右のQRコードからご覧ください



市ホームページ

第12回 成瀬 善之さん 有限会社 成瀬石材店 上粕屋2211 ☎95-4591



成瀬 善之さん

経歴

昭和53年10月生まれ(46歳)。大学卒業後は道路工事関係の会社に3年間勤務し、仕事のイロハを学ぶ。江戸時代末期から続く石屋の家系に生まれ、将来は石工として家業を継ぐという思いが幼いころから自然とあったため、先代の父が営む成瀬石材店で25歳から働き始め、現在は6代目として石材業を中心に営んでいる。

「先人に学ぶこと」と「挑戦すること」過去と未来をつなぐ日向石プロジェクト

日向地区では江戸時代初期から1970年代までの350年間、日向石を使った石材業が盛んであり、私の店も、先々代までは日向石を産業の中心としていました。切り出し直後の青がかかった色が特徴の日向石は、かつて市内の社寺仏閣でも多く使用されていました。現在はあまり知られていないことから、伊勢原の石工として、先人たちが築き上げた町の歴史・文化を日向石を通じて未来へつなぐ活動をするべく「日向石プロジェクト」を立ち上げました。

しかし、日向石の石切場はすでに閉ざされており、新しく切り出すことが難しいため、限られた資源しかありません。その中でどうやって多くの人に日向石を伝えられるか模索し、既存の石を使用した小物を作ったり、加工で出た粉をガラスや陶器に利用したり、商品の開発を進めています。また、イベント出展や体験ツアーを行い、実際に石に触れる機会を創出する活動も行っています。

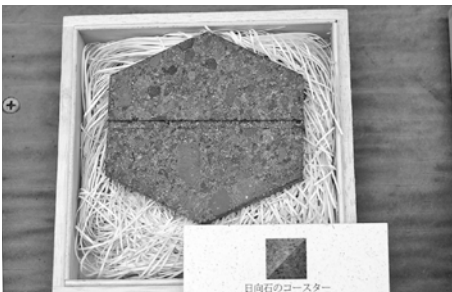
前例のない手探りの毎日ですが、日々新しいことへ挑戦をするこの活動が楽しいからこそ、現在まで続けることができています。この活動が地域産業の復活や市の観光につながることに期待し、石材業を盛り上げていきたいです。



適切なサイズへ切削



断面を整えるための研磨



日向石で作ったコースター



日向石の粉を混ぜ合わせたガラス製品



マイナンバーカードの申請をサポートします

マイナンバーカード用の写真撮影と申請書の記入を手伝います。

特設申請サポート

特設会場でマイナンバーカードの申請をサポートします◇予約不要

と き 11月16日(土)午前9時～正午

ところ 市役所1階ロビー

持ち物 マイナンバーカード交付申請書、または本人確認書類(顔写真付きのもの1点、または顔写真のないもの2点)

窓口申請サポート

希望する人は電話か直接担当へお申し込みください。

と き 火～金曜日の午前9時～11時30分、午後1時30分～4時

ところ 市役所1階戸籍住民課窓口

訪問申請サポート

外出が難しい人を対象に職員が自宅などへ伺います。

と き 火～金曜日の午前10時～11時、午後2時～4時

ところ 自宅、または希望する施設

対象 初めてマイナンバーカードを申請する人で、身体障がいや病気、けが、介護などにより外出が難しい人

申込み 電話で担当へ

☎戸籍住民課☎94-4713



11月25日～12月1日は「犯罪被害者週間」です

寄り添って 周囲でつむぐ 理解の輪

犯罪被害に遭われた人やその家族・遺族は、体を傷つけられ、財産を奪われるといった直接的な被害のほかに、精神的被害にも苦しんでいます。

犯罪は、いつ誰に起こるか分からず、決して他人事ではありません。犯罪被害者やその家族が被害から一刻も早く立ち直り、再び平穏な生活を取り戻すため、周囲の皆さんのご理解とご協力をいただき、支援の輪を広げ、犯罪被害者を温かく支える社会をつくりましょう。

相談窓口

市役所1階の担当のほか、次の窓口でも犯罪被害者に対する相談や支援を行っています。

◆伊勢原警察署☎94-0110

◆県警察本部被害者支援室☎045-211-1212(内線2704)

◆かながわ犯罪被害者サポートステーション☎045-311-4727(月～土曜日の午前9時～午後5時※祝日、年末年始を除く)

☎人権・広聴相談課☎94-4717



ヘルスマイト養成講座

食の知識やスキルを学びます。修了後は地域で食育や健康づくりに関わるボランティアとして活躍できます◇6回以上参加で修了証発行

ところ 中央公民館

対象 市内在住で受講後に地域で食育に関わるボランティア活動を実践できる人25人(申込順)

費用 テキスト代1200円、調理時は材料費600円

申込み 電話か市ホームページから電子申請◇右のQRコードからも申請可



電子申請ページ

日 時	内 容
R7.1/ 9(木) 10:00～12:00	開講式・オリエンテーション、伊勢原市の食育と健康寿命の延伸、食育ボランティア活動紹介
1/16(木) 10:00～13:00	食中毒予防、食品表示制度、調理に向けて
1/29(水) 10:00～13:30	ライフステージ別の食育、塩分測定、【調理】生活習慣病予防メニュー
2/13(木) 10:00～13:30	高齢者の食育、フレイルチェック、【調理】フレイル予防メニュー
2/20(木) 14:00～16:00	講演会「和食文化と3・1・2弁当箱法！」
2/28(金) 10:00～12:00	食品成分表の使い方、栄養バランスの良いオリジナル献立の作成
3/ 6(木) 10:00～12:00	世代別の身体活動・運動ガイド、歯と口の健康
3/12(水) 10:00～12:30	食品ロス、お楽しみメニュー試食会

☎健康づくり課☎94-4609



萩原市長 所信表明

「住みたい・ 住み続けたいまち 伊勢原」を創る

プロフィール

はぎわらてつや
第7代伊勢原市長 萩原鉄也

1967年2月24日生まれの57歳。市立大田小学校、市立伊勢原中学校、県立秦野高等学校、神奈川歯科大学大学院歯学研究科修了。卒業後は、はぎわら歯科医院を開院。伊勢原市議会議員として8年務めた後、9月22日に伊勢原市長に初当選し、10月1日に第7代伊勢原市長に就任。
趣味は愛犬と触れ合うこと。座右の銘は「万里一空」。

先の市長選挙において、市民の皆さま、関係各位の皆さまから大変多くのご支援を賜り市長に就任させていただきました。市長という立場でご挨拶できますこと、大変光栄であるとともに、その課せられた職責の重さを改めて認識し、身の引き締まる思いです。

私は平成24年の伊勢原市議会議員選挙で初当選させていただき、これまでの議員活動を通じて、市民の皆さまの声を真摯に受け止め、さまざまな立場の人と議論を交わし、微力ながら伊勢原のために尽くしてきました。本市にはいまだ多くの課題があり、解決には国や県との連携をは

じめ、市民や議員の皆さまのご理解とご協力、市職員との協力が不可欠であると痛感いたしました。

私は伊勢原市制施行、7代目の市長です。これまで6人の市長が先頭に立って進めてこられた地道な努力と成果を尊重し、それらを土台として市のさらなる発展に貢献することが私の使命であると考えています。これまでの成果に満足することなく、まちづくりを進化させ、市民生活の安心・安全と暮らしの向上に取り組む必要があります。

市政を「運営」から「経営」へ

私は市長選挙にあたり、本市を「住みたい・住み続けたいまち」にしていきたいと申し上げてまいりました。

市民の皆さまが日々生活する中で、困っていることや行政が支援しなければいけないことは何かと自問自答を繰り返しながら、さまざまな立場の人に話を聞いてきました。結論として、市民一人一人が安心して日常生活を送るためには、それぞれのライフステージで誰もが経験する「医療、福祉、子育て、教育」が重要であるという考えに至りました。ハード面の整備も不可欠ですが、同時にソフト面の充実が大切であり、それが「住みたいまち、住み続けたいまち」の実現につながっていくと考えます。

わが国の出生数は令和4年に初めて80万人を割り、想定よりも早く少子化が進行しています。本市でも生産年齢人口の減少により税収減が予

測される一方で、高齢化による社会保障関連経費が増大し、公共施設の老朽化も進み、多額の財政負担が生じることが避けられません。

今後は人口減少・少子高齢社会を前提とした、市政の「運営」から「経営」への視点の転換が必要です。「市政経営」には「ヒト・モノ・財源・情報」という経営資源の最大限の活用が欠かせませんが、大切にすべきは「組織マネジメント」であり、「人材」であると確信しています。幅広い年代の職員の意見を聞きながら、私のまちづくりへの想いを全職員と共有し、一致団結して組織力を高め、さまざまな課題に全力でチャレンジしていきます。

これからの市政運営にあたり、私の目指すまちの姿は「住みたい・住み続けたいまち伊勢原」を創り上げることであり、そのために6つの約束を掲げました。

子育て世代が子育てしやすい・暮らしやすいまち

全国的に少子化が急激に進行し、国全体の令和5年の合計特殊出生率は1.20で、人口維持に必要なと言われる2.07を大きく下回る危機的な状況です。

本市も例外ではなく、年間の出生数を見ると平成30年の745人から令和5年が550人と、5年間で195人、26%も減少しています。この間、総人口は横ばい傾向であることから、少子化が進行していることは明白です。出生率や出生数が減少している理由は、ライフスタイルや結婚観・家族観の変化などさまざまな要因が考えられますが、日々の生活や将来に対する経済的な不安なども要因になっていると考えます。

今後、本市が「子育て世代に選ばれるまち」「住みたい・住み続けたいまち」になるには子育て支援の充実が不可欠なため、まずは乳幼児のい

る家庭へのオムツの支給や妊産婦の健康診断などに対する助成拡充を進めます。さらに、幼児教育・保育施設への支援を拡充し、働きながら安心して子育てができる環境を整備するとともに、将来に向けた本市の教育の在り方、老朽化する学校施設をどうするかなど、児童生徒や地域にとって最も望ましい教育環境の在り方を検討してまいります。



子育て支援センターで親子の交流

恵まれた医療環境を生かした日本一の健康都市

柱は2本あり、「医療・福祉の充実による健康寿命の延伸」と「障がい者に優しいまちづくり」です。

まず、「健康寿命の延伸」です。来年は、全ての「団塊の世代」が75歳以上の後期高齢者となります。国の総人口約1億2000万人のうち、後期高齢者が18%の約2200万人、そして30%が65歳以上になると予測されており、医療費や介護費の増大、労働力不足など、社会全体にさまざまな影響が懸念されています。

超高齢社会が進む中、私の歯科医師としてのライフワークである健康寿命の延伸や高齢者の健康維持に注力し、特に要介護につながる認知症対策などに取り組みます。そのためにも、特定の医療施設単独ではなく、病院やクリニック、訪問介護ステーションといった医療機関、介護施設、行政などが一体となった地域医療体制を充実させます。さらには、地域の中で個々に役割・機能を持った医療機関が連携することで、患者さんが急性期から回復期を経て自宅に戻るまで、切れ目のない医療が受けられる地域医療の連携、ネットワークづくりを目指すなど、本市の恵まれた

医療環境を生かし「日本一の健康都市」を目指します。

次に、「障がい者に優しいまちづくり」です。「パリ・パラリンピック」では、大会のテーマに「共生社会の実現」が掲げられ、障がいがある無いに関わらず、女性も男性も、お年寄りも若い人も、お互いの人権や尊厳を認め合い・支え合い、全ての人の能力が発揮される社会を体現した素晴らしい大会でした。この共生社会の実現こそが、まちの活力向上につながると確信しています。

そのためには、障がいのある人の就労環境の向上を目指すとともに、保育所や幼稚園などと連携を図りながら、障がいのある子どもたちがのびのびと育まれる環境整備のほか、保護者の負担軽減を図ることで生活の質の向上を目指します。



市役所内で開催される健康測定会

力強い地域経済と魅力ある観光発信都市

まず、農業分野については、持続的かつ安定的に農業経営ができる環境づくりに取り組みます。

農業現場では、高齢化とともに担い手不足が大きな課題となっています。この状況を改善するには、生産性の向上が不可欠です。例えばスマート農業の実現に向けた先端技術の導入など、全国の先進事例を研究し、本市の状況を踏まえた次世代の農業を担う人材の育成に取り組みます。

商業分野では伊勢原駅北口地区再開発事業を契機として、中心市街地の活性化に向けた効果的な方策について、再開発事業の推進と並行して議論を重ねてまいります。さらに、伊勢原大山インターチェンジ周辺の土地利用による市内産業の発展や、新東名高速道路の全線開通を見越した周辺地

域への波及効果などを踏まえ、商工業の活性化につながる取り組みを検討してまいります。

観光振興については、現在、日本国内でインバウンド効果による賑わいを見せていることから、日本遺産を核とした観光振興策の充実をさらに図るとともに、これまで活用されていない歴史文化遺産の掘り起こしや、それらを含めた新たな観光資源の活用を検討してまいります。



紅葉シーズンの大山

生活の利便性・経済インフラの整ったまち

今後10年は将来の伊勢原を形作る上でこれまでにない大規模基盤整備が計画されており、本市のまちづくりにとって千載一遇のチャンスであると捉えております。伊勢原駅北口地区再開発事業をはじめ、令和9年度に予定されている新東名高速道路の全線開通、また、小田急電鉄の総合車両所の整備やそれと連携した都市計画道路の整備、周辺地域の開発、さらにはこうした基盤整備を有機的に連携させた利便性の高いまちづくりの推進など、高山市政で種をまいていただいた大型プロジェクトを引き続き1歩ずつ着実に推進してまいります。



伊勢原大山インターチェンジ

いきがい・やりがいのある魅力的な市役所

市役所職員が、いきがい・やりがいを持って元気に市民の皆さまと接することが、お互いの信頼関係を築き、生活の質の向上にもつながると信じています。より良いまちづくりのエンジンとなる市役所の活性化に向けて、まずは職員と意見交換をする場を設け、未来の伊勢原を想像する柔軟な発想を持った職員の育成を進め、時代のニーズに即した行政サービスが提供できる執行体制を構築します。



先輩職員との座談会

災害に強い安心して暮らせるまち

能登半島では地震や豪雨で甚大な被害が発生しましたが、本市でも8月には「南海トラフ臨時情報」の発表や、台風10号の影響による大雨で、善波トンネル法面の崩落や各地で土砂崩れが起きるなど、大きな被害がありました。全国で起こった災害やその対策を教訓に、改めてこれまでの災害対策を検証しながら、必要な対策を早急に検討することで、災害に強い安心して暮らせるまちを目指します。

まずは、自助・共助・公助が実践的に支え合う仕組みを構築するととも

に、備蓄品や地域の自主防災会への助成の充実などに取り組みます。さらに河川の浸水対策や急傾斜地対策や下水道施設の耐震化をはじめ、高齢者や障がい者などの災害弱者が確実に避難できる仕組みの構築、障がい者や女性に配慮した避難所対策を進めます。



総合防災訓練での緊急物資搬送連携訓練

常に市民に寄り添う

まちづくりは、短期間で成果が出るものもありますが、長い時間を要する場合もあります。特に、医療、福祉、子育て、教育の分野は市民一人一人のライフステージの変化とともにニーズも変化するため、効果の検証には時間がかかります。今、市民に必要な行政サービスは何かという、常に市民に寄り添う姿勢を大切に、市民生活の向上につながる取り組みを進めます。

本市の厳しい財政状況を踏まえながらソフト・ハード両面の事業をバラ

ンス良く推進していくためには、施策の優先順位をしっかりと見定め、「市政運営」から「市政経営」への転換を図り、これまでの常識から脱却して、大胆な発想や新しい概念を取り入れていかなければなりません。

そのためには、市民の皆さまをはじめ、本市にかかわる全ての皆さまの力と知恵を結集し、本市が一丸となったその先に「このまちに住みたい・住み続けたい」と思ってもらえる伊勢原が実現すると信じて、まちづくりを進めてまいります。